

石岡を掘る 7

令和3年

7月31日(土) ▶ 10月31日(日)

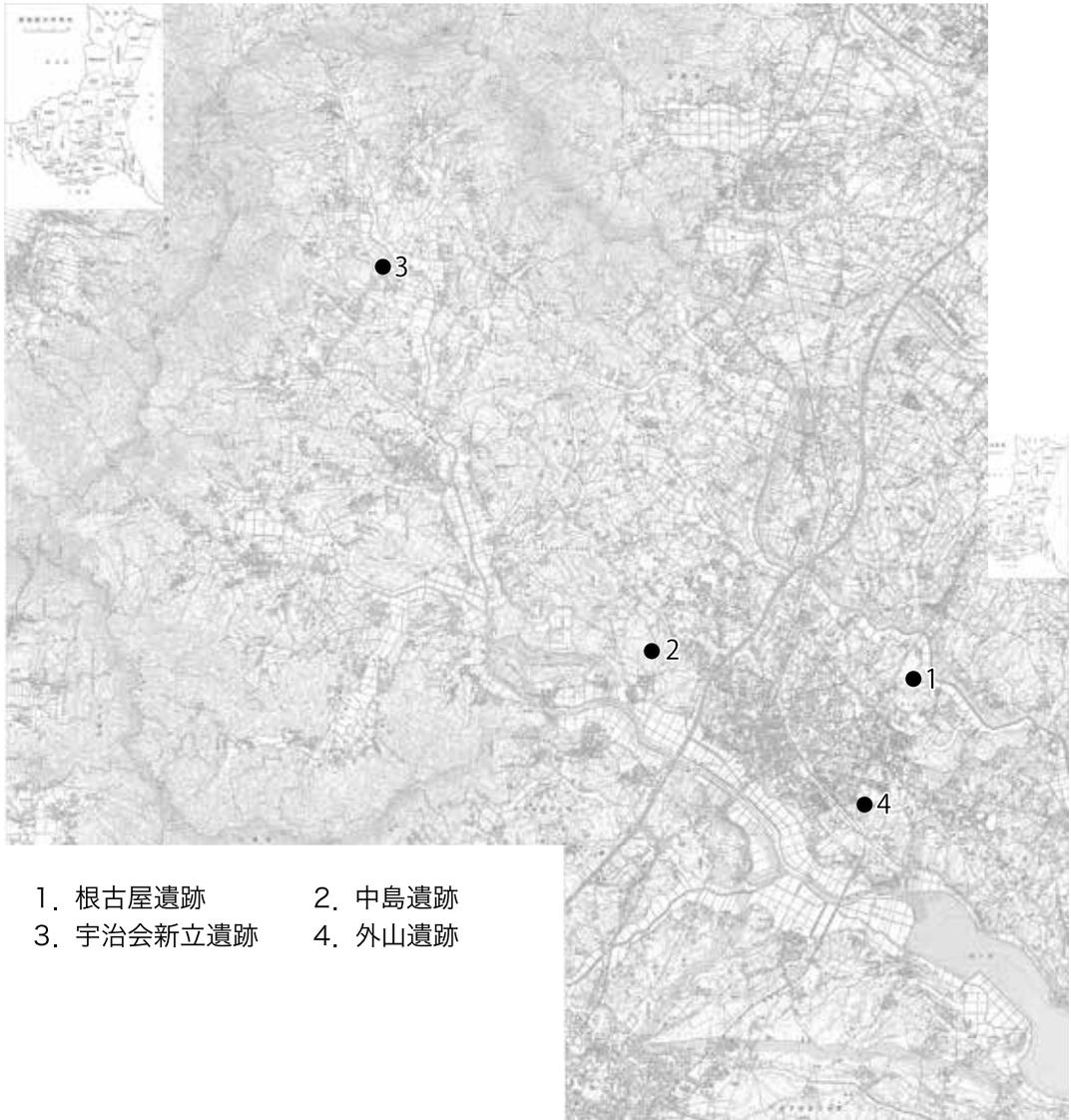
常陸風土記の丘 展示室



外山遺跡 縄文時代石器

月曜休館（祝祭日のときはその翌日）
午前9時～午後5時
入園料 大人（16才以上） 310円
小人（6才以上16才未満） 150円

宇治会新立遺跡 古墳時代土器



- | | |
|------------|---------|
| 1. 根古屋遺跡 | 2. 中島遺跡 |
| 3. 宇治会新立遺跡 | 4. 外山遺跡 |

●例言●

本冊子は、2021(令和3)年7月31日～10月31日を会期として、常陸風土記の丘展示室において開催する「石岡を掘る7」に際して作成したものです。

展示および本冊子の執筆・編集は、石岡市教育委員会 文化振興課(谷仲俊雄・金子悠人)が行いました。

本冊子で使用した地図は、国土地理院数値地図25000から部分転載いたしました。

●ご協力・ご助言をいただいた方々●(敬称略)

萩野谷 悟 橋本 勝雄 有限会社勾玉工房Mogi

ねごや 根古屋遺跡

—園部川のムラ景観解明のカギ—

市道改良等に伴い、平成17年～令和元年にかけて発掘調査が行われています。

本遺跡では、縄文時代中期(5,500～4,500年前)と考えられる

竪穴建物跡や中世の溝が発見されています。縄文時代の遺物としては、加曾利E式という縄文時代中期後半の土器が主体となっていますが、早期(約11,500～7,000年前)の底のとがった尖底土器や前期(約7,000～5,500年前)の縄文を矢羽根状に転がして模様をつけた土器が出土しています。また、穴掘りや植物採取に使用した打製石斧や魚を捕



▲発掘調査で確認された土坑(縄文時代)

る網のおもりとして用いられた土器片へんなどバラエティーすいに富んだ遺物が確認でき、園部川流域の豊かで繁栄した生活を感じることができます。

根古屋遺跡の南東には、土器を製作した跡などが発見されたことで有名な東大橋原遺跡があります。根古屋遺跡は、この東大橋原遺跡とほぼ同時期の遺跡ですが土器を丹念に観察すると、やや後の時期の遺物が多くみられます。

このことから、東大橋原遺跡に住んでいた人々が、根古屋遺跡に移り住んで来たと考えられることもできます。

園部川周辺の縄文時代の理解を推し進めるカギが、この根古屋遺跡には十分に詰まっているのです。



▲調査風景



◀試掘調査で確認された切りあいのある縄文時代の住居。埋蔵文化財調査では、トレンチという細長い穴を掘って遺跡の存在やその広がりなどを確認します。

ねごや 根古屋遺跡

—中世要害の可能性—

根古屋遺跡では、縄文時代以外にも中世の溝と思われる遺構が発見されています(第1次調査1区)。

『石岡市史』によれば、溝が見つかった南側は東大橋要害のあとであることが示されています。



周辺は三方を水田に囲まれ、香取神社や三井寺廃寺、物見塚などの存在からも遺物は少ないものの、中世の遺構の存在が浮かび上がります。

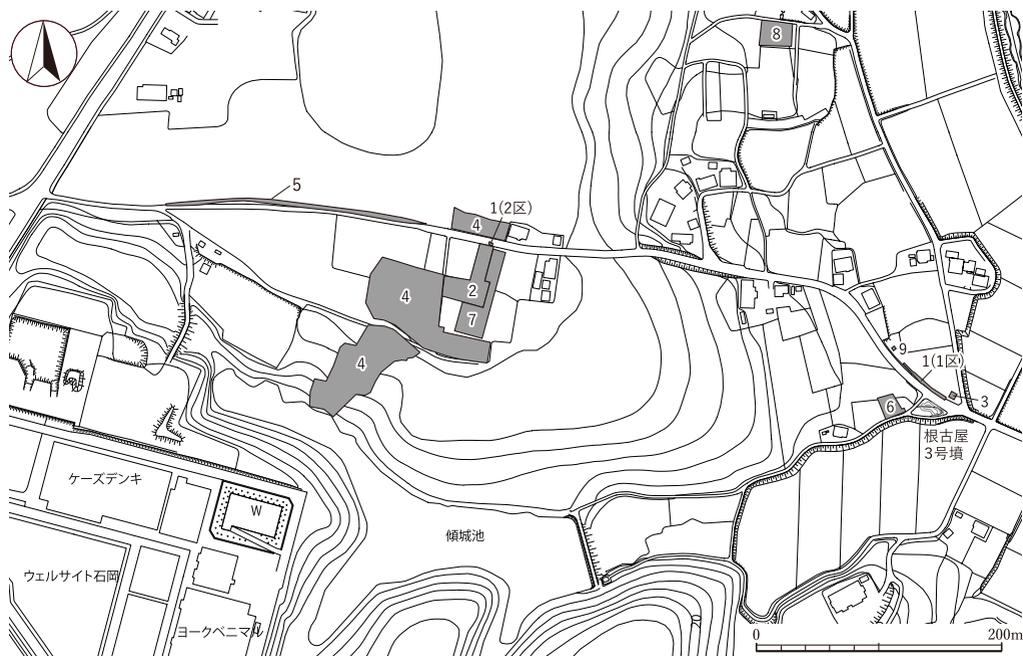
溝自体は高低差はなく、腐植土等も見られません。区画溝や



側溝のようなもの
と考えることができます。土師器質の土器が出土していることからその意義は大きく、今後の調査の進展が期待されます。

▲発見された中世の溝

調査 回数	調査 年度	調査 種類	所在地	調査原因	調査期間	主な遺構 (時期・遺物)	報告
第1次	H17	試掘	東大橋 605-1 ほか	市道改良	20051006 ～ 20051013 20051028 ～ 20051125	溝 (中世)・土坑 (縄文)	市内遺跡 1
		発掘					市内遺跡 5
第2次	H21	試掘	東大橋 1792-1	共同住宅建設	20091117 ～ 20091118	竪穴建物・土坑 (縄文)	市内遺跡 6
第3次	H22	試掘	東大橋 605-1	移動通信用基地局建設	20101224	なし	市内遺跡 7
第4次	H24	試掘	東大橋 1783 ほか	グラウンドゴルフ場整備	20121129 ～ 20121212	土坑 (縄文)	市内遺跡 9
第5次	H25	試掘	東大橋 1913 ほか	市道改良	20140206 ～ 20140217 20140317 ～ 20140331	土坑 (縄文)・溝	市内遺跡 10
		発掘					市内遺跡 12
第6次	H27	試掘	東大橋 635-1	個人住宅建設	20150707	なし	
第7次	H27	試掘	東大橋 1792-1	集合住宅建設	20150810	竪穴建物・土坑 (縄文)	
第8次	H29	試掘	東大橋 548-2	個人住宅建設	20170817	なし	
第9次	R1	試掘	東大橋 607-1	移動通信用基地局建設	20191015	なし	



▲根古屋遺跡の調査歴と調査地点

なか じま 中島遺跡

—古墳時代～奈良時代の集落—

石岡地方斎場の建設や増築に伴い、平成22年度および令和元・2年度に発掘調査を行いました。縄文時代の炉穴や狩猟用の落とし穴、古墳時代～奈良時代の集落跡などが発見されています。



なかでも古墳時代では、計17軒もの竪穴住居跡が発掘されています。住居跡は、方形で一辺の大きさが4～6m程度が一般的。しかし、1軒だけ一辺が9m近い大型の住居跡がありました。畳を40枚以上敷くことができる広さになり、通常の4倍余りもの面積があることとなります。古墳時代の終わり頃(約1,400年前)



の住居です。

通常の4倍もの広さの住居。大人数、大家族が住んでいたのか、有力者の大邸宅だったのか。それとも別の目的だったのでしょうか。

◀古墳時代の大型住居

奈良時代になると、発掘された竪穴住居跡は3軒と減少します。しかも、その3軒も40～60m離れて単独で存在しており、集落としては少しさびしい感じがします。



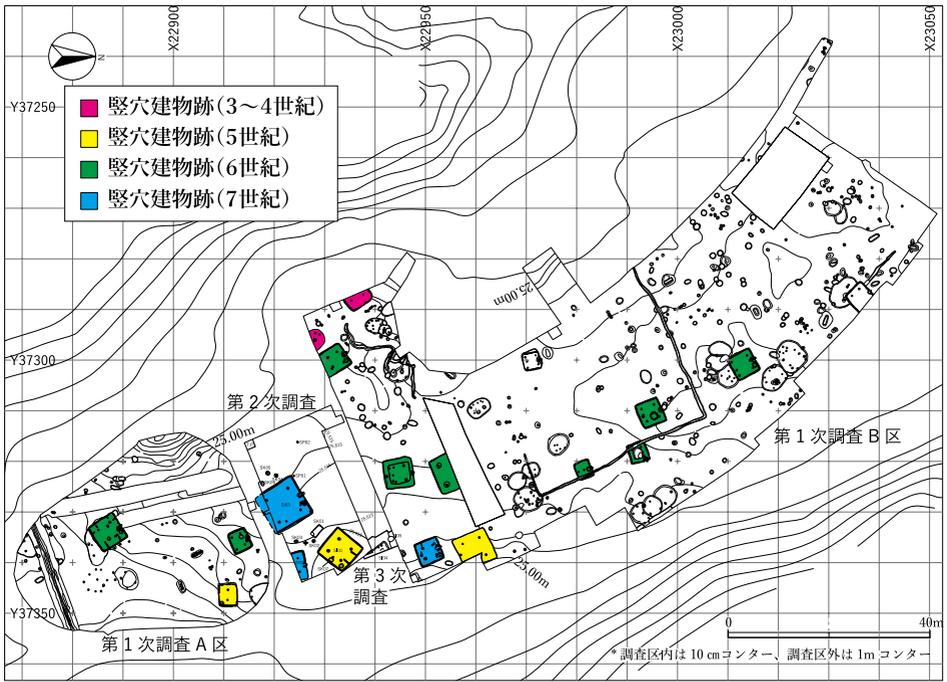
▲奈良時代の竪穴住居跡

その空き地の部分には、径1m前後で、底部付近でやや広くなる袋状の土坑(穴)が30基弱存在しています。遺物の出土が少なく、時期の確定は難しいですが、遺構の重複関係等からは奈良時代の可能性が考えられます。

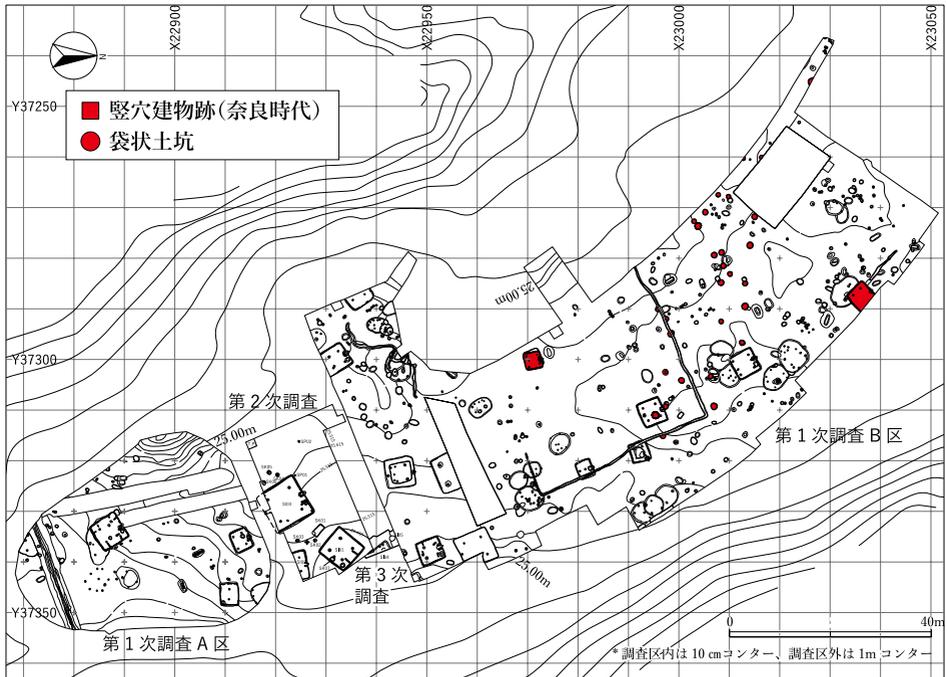
空き地の部分に同じような穴が群集する様子は、集落での集約的な使用が想定されます。食料や種籾等を保管する貯蔵施設だったのでしょうか。



◀▲袋状の土坑



▲中島遺跡 古墳時代の遺構分布



▲中島遺跡 奈良時代の遺構分布

中島遺跡

—新発見の堀跡—

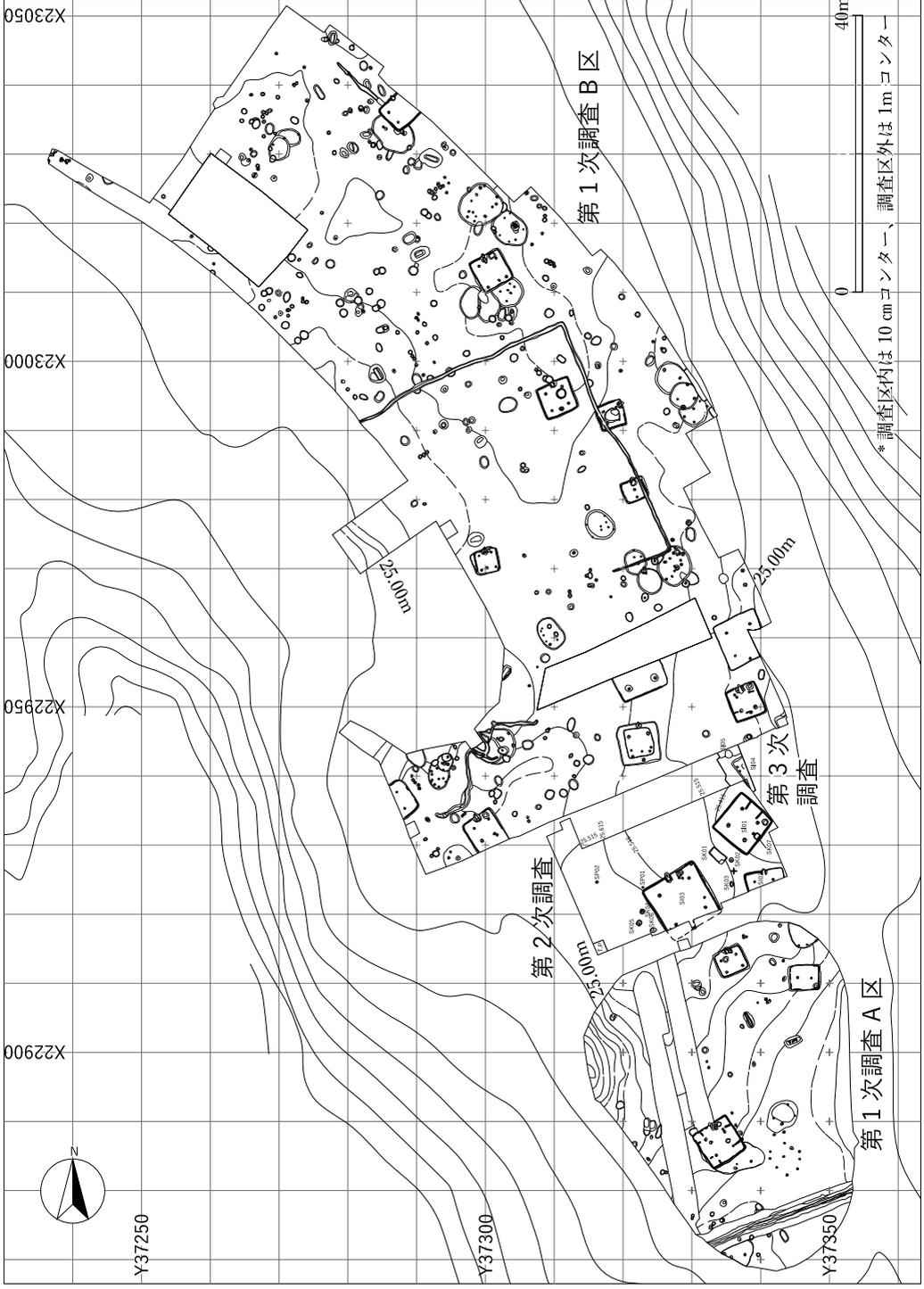
幅が3m余りで深さが1m以上もある堀跡も発見されています。断面がV字形をした「薬研堀」と呼ばれるもので、戦国時代の城館の空堀に使われることが多いものです。

戦国時代の石岡では、府中城を拠城とする大掾氏と周辺の江戸氏や小田氏との間で抗争が続いていました。大掾氏は府中城を守るために多くの出城を築き、敵の攻撃に備えていました。一方で小田氏もそれを包囲するように出城を築き対峙していました。また、1531年には江戸氏と小



田氏が「鹿子原」で合戦したことが記録に残っています。鹿子原が現在の鹿の子だとすると、中島遺跡は谷をはさんだすぐ対岸になります。堀跡からは、残念ながら年代のわかるような資料が出土していませんが、鹿子原の合戦に際してのものや、大掾氏か小田氏の出城だったのかもしれませんが。

▲発掘された堀跡



▲中島遺跡全体図



▲中島遺跡 第2次調査遠景（上）と全景（下）

上写真の右の建物（斎場）が第1次調査B区、左の調整池が第1次調査A区



▲中島遺跡 第3次調査全景

奥に見える調整池が第1次調査A区

う じ え に い だち 宇治会新立遺跡

—高杯が
まとまって出土—

平成22年、幼保園の駐車場整備に伴って新発見された遺跡です。発掘したのは古墳時代の竪穴住居跡の一部分だけでしたが、その北西隅から土器がまとまって出土しました。しかもその土器は、飲食物を盛ってお供えするような、高い脚のついた土器「高杯」ばかりで、4個以上ありました。貯蔵庫のようなものがあって、保管されていたのでしょうか。



調査で発見したのは古墳時代の竪穴住居跡1軒でしたが、周



辺でも古墳時代の土器が見つかっています。古墳時代の集落が広がっていたと考えられます。

◀高杯発見の様子



▲外山遺跡の縄文時代石器（左：有撮石器、中央・右：尖頭器）

左長さ 12.2cm

写真撮影：萩野谷 悟氏

石岡市発掘調査速報展

石岡を掘る 7

令和3年7月31日発行

編集 石岡市教育委員会 文化振興課

発行 石岡市教育委員会

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡 5680-1

常陸風土記の丘

〒315-0007 茨城県石岡市染谷 1646